

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和3年度第3回加東市商工業振興協議会
開催日時	令和3年11月22日(月) 16時00分から17時25分まで
開催場所	加東市役所 5階 501会議室
議長の氏名 (会長 宮崎良平)	
出席及び欠席委員の氏名	・長沼恒雄 ・下山宜昭 ・土肥富幸 ・吉田伊佐見 ・長谷川妙子 ・土肥富夫 ・山本理之 ・小村崎栄一 ・小坂征幸 (※欠席なし)
説明のため出席した者の職氏名	なし
出席した事務局職員の氏名及びその職名	・産業振興部商工観光課 課長 原田幸広 ・産業振興部商工観光課 副課長 松末久美 ・産業振興部商工観光課 主査 上山剛史
議題	市内事業所等の消費喚起施策について
会議結果	次回会議にて継続して協議を行う
会議の経過及び資料名	別紙(協議会の経過)のとおり

令和 3年12月14日

会長 宮崎良平
副会長 長沼恒雄

別紙（協議会の経過）

1 開会

2 委員紹介

3 協議

協議に係る下記の資料1、2及び3について事務局から一括説明した後に、資料3を基に取組案について協議を行った。

- ・（資料1）第2回加東市商工業振興協議会（書面開催）の会議資料に対する委員の意見一覧
- ・（資料2）加東市商工業振興基本条例
- ・（資料3）協議事項 加東アート館（拠点）、ARスタンプラリー（周遊）を活用した市内飲食店等への誘導策について【取組案とそれに対する各役割】

【取組案に係る協議経過】

○取組案1 市内周遊のモデルルートの形成 について

委員 誰をターゲットにするか明確にした上でモデルルートを作成するべきである。

委員 取組案1だけでなく他の取組案についても、限られた予算の中で費用対効果を上げるためには、ターゲットを明確にするべきである。

委員 ターゲットを明確にして、何のために周遊するのか明確にした上で、特産品などを消費喚起に繋げるべきである。

事務局 年代別やカテゴリー別のモデルルートの作成を検討する。

○取組案2 加東アート館・ARスタンプラリーとうまいもんテイクアウト・加東を贈るおみやげの連携 及び 取組案3 市内外へのPR活動 について

委員 現状、京阪神などの市外からARスタンプラリーを目的として、子ども連れの家族層が来訪されている。また、年配の方でもスマホのアプリを使うので荷物がいらずに手軽に利用できることから、これまで市内の社寺仏閣を目的とされていた方とは違う目的の方も増えてきている。ぜひ、観光協会としては市及び商工会とも協力してARの街としてPRをしていくべきと考える。

事務局 まだ市内への周知も行き届いていないので、市内事業者や市民の方々にも周知を図る取組案や、市内への周知が図れた上で、さらに取組むべき案や各役割の案を出していただきたい。

委員 これまで商工会及び観光協会が事業を行う際に、単独で行ってきていることが多々あった。連携が少しでもできていれば効果が上がったのではないかというもったいない部分があるので、これからの既存のものを連携させていくだけで効果が上がると考えられる。その連携方法として、現状の加東観光ナビアプリに市内情報（飲食店やおみやげの情報）追加・集約していくことが有効であると考え。この加東観光ナビアプリに参加・協力する市内事業者や商店街団体は、自身の場所で観光ナビアプリの周知を行い、互いの周知の相乗効果がうまれる。

委員 加東観光ナビアプリやARスタンプラリーを知らない、または馴染みにくい層への周知はどうするか。

委員 最初のPRは、QRを掲載したチラシを、道の駅、観光協会、商工会に設置して知ってもらったらよい。今は県内への周知・PRが主だと思うが、2025年の万博を見据えて、県外やインバウンドの取り込みに繋がる。

委員 観光の情報だけでなく、産業情報として釣針やゴルフ場の情報とリンクでき

れば良い。観光ナビアプリを良いものにしていくべきである。

事務局 人口減少していく中で、市が加東アート館及びARスタンプラリーで周遊される来訪者の消費喚起を促し地域産業の活性を図ろうとしている施策が、2022年のJRデスティネーションキャンペーンを実施する兵庫県も、観光を通じた交流人口を増やしていき地域にお金を落としてもらうことで地域産業の振興を図るといふものと一致している。この地域でお金を落としてもらうための取組案を提案いただきたい、さらに市・商工団体・事業者がどのような役割を担えば取組案を有効に進めることができるか、協議いただきたい。

委員 情報があふれているので、新たに情報を作るのではなく、既存の情報を連携させて、検索の簡素化する必要がある。

委員 ARスタンプラリーはアニメ好きの方だけがターゲットになるのでは。
事務局 スタンプラリーの景品として、現状のアニメポストカードに加えて、商品券などを加えたら良いのではないかと考えている。

委員 JRデスティネーションキャンペーンに関連して、事務局は国や兵庫県の施策の基本情報をもっとしっかりつかんでおくべきである。これからの予定はどうなっているのか。

事務局 観光コースをいくつか兵庫県に提案しており、審査の後に採用が決定される。加東アート館及びARスタンプラリーも提案にあげている。

○取組案4 「道の駅とうじょう」からの情報発信強化 について

委員 デジタルサイネージ（電子看板）は道の駅とうじょうだけでなく、Bioのバスストップにも設置されたい。

委員 道の駅からの情報発信に協力していく。ただ、現状としてトイレの数不足の課題があるので、その整備は市にしてほしい。

事務局 道の駅とうじょうにはコロナ禍のR2でも年間65万人が訪れており、情報発信拠点として重要と考えている。トイレの件については県と協議する。

○取組案5 学生目線の加東市の観光策（案）の研究・発表の場づくり について

委員 加東市のPR方法を検討するために、大学の学生や教授は日頃から加東市と似たモデル都市の調査をしており、それらに協力してもらってその知識を活かして論理的に検討することが必要だと考える。

委員 みなと銀行はいくつかの大学と連携協定を結び共同研究しており、この取組案に対して顔つなぎの協力ができる。大学は地域貢献を求められおり、この取組に協力してもらえと思う。

事務局 ある大学と連携できるか提案中である。

○その他の意見等

委員 拠点と拠点をつなぐ手段として、サイクリングにもっと力を入れたらどうか。

委員 観光協会や、播中公園で兵庫県も積極的に取り組んでいる。

委員 加東市としてブランド力のあるものを、市、商工会、観光協会で作っていくべきである。

事務局 本日の意見を反映させていただいて、最終的には取組案に対する行動目標及び成果目標を設定して、次回の協議会にて協議していただく。

4 報告

(1) 令和3年度合同企業説明会の実施について

事務局から、昨年度に引き続き令和4年3月頃に実施予定の旨を口頭にて報告。

(2) 加東市ワンチーム商品券事業の実施状況について

事務局から、今年度の消費喚起施策である本事業の実施状況を口頭にて報告。

5 その他

事務局から、次回の協議会開催予定を連絡。

6 閉会